

Principal Correspondence

3つの教育目標



「自立」 「創造」 「指導力」

リリーバール小学校は、人間力を育むことを最大の校訓に掲げています。最近の学問では、IQは必ずしも続かないが、人間力＝人間性知能の成長は幼少期からずっと続くと言われていました。当校で言うなら、すなわち「自立」「創造」「指導力」の3項目であります。

「自立」はある意味、教育の最終目標です。

平たく言えば税金で支えてもらっている側(教育を受けている側)から、税金を払い社会を支える側になってもらう事です。「人のお世話にならぬよう人の為に尽くせるよう」自立は自由な反面、責任を伴います。

次に、これからの世界に必要な能力は「創造性」であると思います。

人類の存亡にかかわる大きな問題が山積する現代社会。

日本に限っても、技術立国、少子化、高齢化、国際化、地方分権・・・実に様々な課題がありますが、これらの解決に必要なのは類稀なる発想や、新しい哲学、ビジョンを構築する力です。前例主義の優等生より時代を切り開く人を！

「創造性」の芽をこの時期にぜひ育みたいと考えます。私は子どもたちに「知恵とアイデアで超えられない壁はない」と言っています。

そして日本の社会に一番欠けている「指導力」教育は、全人格教育そのものとも言えましょう。

リーダーになるには「人望」が無ければなりません。また、民主社会ではリーダーは交代しますから、「リーダーシップ」とともに「フォロワーシップ(チームの目標達成に貢献できる力。リーダーを支える力)」も表裏一体で学ばねばなりません。

リーダー教育だけでは真のリーダーになれません。「リーダーは北極星を指し示そう！チームワークで乗り越えよう！」これが当校の掲げる「指導力教育」です。

勿論こうした人間力教育の裏付けには確かな基礎学力の養成が欠かせません。また、この時期は基礎体力の育成が同じく重要です。心豊かな少年少女期を提供することが当校の務めと考えています。

Principal Correspondence

小学生の育ち・・・21世紀型の学力

ひと口に小学生と言っても、6歳と12歳では大きな差があります。きわめて大雑把な分け方ですが・・・

ひととおりの脳の基本ができる臨界期(9歳, 3年生ぐらいまで)



- ①基本的な生活習慣(自己学習の習慣・・・平たく言えば宿題を自分からやる)の確立。
- ②五感をフルに使うような体験活動(深く、感動を伴うような体験を多く)。
- ③音読, 暗誦, 漢字, 四則計算などの反復とつめこみが大事です。この体験・基礎学力なしに、「総合学習」「創造性」「21世紀型学力」などはあり得ません

では、10歳ぐらいからはどうするか？育脳学童の考え方です。



①OECD(いわゆる先進国クラブ)のPISA型学力(国際学力到達度)型の「問う」「考える」「表現する」力の養成

学童では自由研究・プレゼンテーション能力・読書感想文コンテストの育成など。

②リーダーシップ教育

コミュニケーション能力・人の気持ちを理解する(思いやり)公正性, 利他的な心の育成(下級生を優先する)。

規範意識の育成(学童では主に長期休みで学童対抗運動会, キャンプ, 校外活動縦割り体験活動で意識的に育てている)。

以下は学童保育ではなかなか人的・環境的資源が提供できないのですが、各種習い事との連携によって育てていくことが大事かと思います。

③グローバル教育

英語は必須の能力。競争と共生の意識の醸成・多様な価値観の理解・グローバルな社会貢献の意識。

④得意才能のプルアップ

スポーツ・芸術・情報・各種検定・多様な才能能力を特化して磨いていく。

学童保育ではこうしたトータルな考え方の上で一端を担っています。